

広告

企画・制作 LEXUS NEW TAKUMI PROJECT 実行委員会



スーパーバイザー
小山 薫堂氏

1964年6月23日 熊本県天草市生まれ。日本大学芸術学部放送学科卒。「料理の鉄人」や「ニューデザインパラダイス」、映画「おくりびと」など数多くのヒット作品の企画・構成に携わる。「くまモン」の生みの親でもある。



9月、生駒氏とエリアコンサルティングにて

レクサスが日本全国の「匠」のモノづくりを応援

「地域のオリジナリティーはあるか?」「コンセプトやターゲットは明確か?」など、サポートメンバーから真剣なアドバイスが行われ、匠は約一年の試行錯誤を経てプロダクトを完成させた。



1月18日、プレゼンテーションにて

「LEXUS NEW TAKUMI PROJECT」(主催:レクサス)は、日本各地で地域の独自性や技術を生かし、新しいモノづくりに挑む「匠」を応援する。

プロダクトのスーパーバイザーに、放送作家として多くのヒットを手がけたくまモンの生みの親でもある小山薫堂氏を迎え、隈研吾氏(建築家東京大学教授)、ゲエナエル・ニコラ氏(デザイナー)、清川あさみ氏(アーティスト)、生駒芳子氏(ファッショント・プロデューサー)、下川一哉氏(意匠研究所)らをサポートメンバーに発足。第一回となる今回は、全国47都道府県から地域推薦、一般公募合わせて52名の若き匠が選出された。

1月18日に都内で行われたイベントでは全国の百貨店、セレクトショップのバイヤー、メディア、デザイン関係者などに向けてプレゼンテーションを実施。世界へ羽ばたく足がかり、ビジネス拡大のきっかけとなるチャンスを手にした。

伝統工芸品をベースに キャッチーな商品を

「越前筆筒」をキャリーバッグに。筆筒を持ち運ぶという発想を進化させ、茶道具の道具箱として用途を特化した山口さんのプロダクト。新進気鋭の茶人のアドバイスを受け、ショルダーバッグタイプの茶箱「Cha-Bag」と、野点の道具一式を運ぶことができない「Cha-Carry」を造り出し、越前筆筒の伝統技術と可能性を広く知らしめた。その斬新なルックスとアイデア、技術的なチャレンジは高く評価され、サポートメンバーである生駒氏の「注目の匠」にも選ばれた。



「注目の匠」に選出された山口さん



個別商談の様子

今回は茶道のためのプロダクトだが「キャリーはあくまで器」。華道や書道の道具箱にも使えるし、コーヒーやお酒を楽しむ趣味の道具入れにも、用

「誰かが実際に使うものではない」とモノとしての説得力がない」との生駒氏のアドバイスで、想定を「茶人のための道具箱」に。さらに生駒氏は、「今は空前の茶箱ブームで、旅の時代。トレンドは外していない」と山口さんの背中を押し、ラゲジュアリーな

「器」の使い方を 提案してほしい

商品には安全性や堅牢性が不可欠なことも指摘した。茶人からの助言も生かし完成したのが「Cha-Bag」。柔らかなアールを描く米ヒバ材の箱の中に茶道具を収め、着物の帯締めを利用したストラップを肩にかければ、両手を自由に使うことができる。蓋裏と箱の底には美しい着物の生地が張られた。

「Cha-Carry」の中には「Cha-Bag」のほか、お湯を沸かす携帯型のガスコンロや、紐毛せん、水などが収められキャリー一つでどこでも茶会を開ける。外観には表れないが、重量は3.8kgと従来品より35%以下軽量化し、角の尖りをなくして安全性を確保。大きさは機内持ち込みサイズで、利便性も高い。



完成プロダクト「Cha-Carry」と「Cha-Bag」

仕事の原点を再発見できた



最小限の茶道具が入る「Cha-Bag」

途は使い手によって融通無碍にアレンジできる。

「実はお正月を過ぎてもプロダクトがでず、最後の1週間、ほとんど寝ずに仕上げました」と、山口さんは打ち明けた。

従来の筆筒キャリーの「使い方が見えない」という弱みを克服し、茶人のための道具箱を作るという方向性はプロダクト初期からクリアだった。エリア・コンサルティングでは、山口さんの「使ってほしい茶人がいま

す」との提案に、生駒氏が「あら、その方は私のお友達よ」と、その場で電話をして協力の約束を取り付けるなど、出足は順調だった。しかし実際の製作に入ると、大きく苦しむことに。「プレゼンでは見た目で目立たない」と派手な装飾などを試みたが、どうにもしっくりこないのだ。

行き詰まる中、とりあえず手を動かしてみると、見えてくるものがあった。柔らかなラインの茶箱は、過去に製作した椅子のアールがヒントとなって生まれた。工房に身を置くことで、使う人の用を突き詰めた、シンプルなものづくりが自分の仕事の原点だと気がつき、あり、ギリギリで迷いを払拭して、納得のプロダクトを完成させた。

「Cha-Carry」「Cha-Bag」

展示会決定!

期間: 3/26 (日) ~ 4/8 (土)
会場: レクサス福井・ショールーム (福井市大和田 2-2002)

4/8には山口さんがレクサス福井にお越しいただきます! 詳しい時間や内容はレクサス福井までお問い合わせください。

「コラボ」で広がる

キャリーの可能性

「Cha-Carry」の外観は筆筒だが、表の板は一枚丸ごと取り外せる構造。中のスペースのアレンジは使い手に委ねられる。茶人以外にも他ジャンルの道を究めた人とコラボして、「道具箱としての可能性を広げていきたい」と願う。

アイデアだけでなく、技術面でも、一人だけのモノづくりにには限界がある。「他の職人や異業種と組めば可能性が広がると感じた」と語る。ハードルだった軽量化には、県内の最新技術とのコラボで桐材に樹脂を自浸・強化して薄くし、3Dプリンターで型を製作したアルミ製金具を取り入れたことが、大きな役割を果たした。

商談会は盛況で、実際にキャリーを引いて笑顔になる人が続出。百貨店のバイヤーからの反応も上々で、多くの人が興味を持ち、評価もしていただき、越前筆筒の可能性はあると実感した」と、山口さん。プロダクトでの出会いと縁を将来につなげていきたいと意気込む。



山口 祐弘
福井県/越前筆筒職人

1975年福井県越前市生まれ。大手建設機械メーカーに就職するも、自分の手でモノづくりがしたくなり退職。長野県の技術専門学校で家具製作の基礎を学び、香川県の特注家具メーカーで4年間、地元越前市の指物師の下で2年間修業。2012年Furnitureholicを設立し、主にオーダーメイドの家具を製作している。最近では、福井の7つの伝統的工芸品の職人を集めたグループ「七人の侍」を結成し活動している。

